

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：32602

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K12490

研究課題名（和文）第二次世界大戦前の北米法文化圏における漁業権の人種化とアジア系移民排斥

研究課題名（英文）The Racialization of Fishing Rights and the Exclusion of Asians in the North American Legal Cultural Sphere before World War II

研究代表者

今野 裕子（KONNO, YUKO）

亜細亜大学・国際関係学部・講師

研究者番号：10707623

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、19世紀後半から20世紀前半のアメリカ合衆国（以下アメリカ）やカナダで繰り広げられたアジア系漁民排斥の政治を、北米法文化圏における漁業権解釈や漁業行政の史的展開との関連において把握し直すことを目的とした。アーカイブ調査やデータベースを活用した法律の分析を行い、成果を石井紀子・今野裕子編『「法-文化圏」とアメリカ』（上智大学出版、2022年）所収の論文にまとめた。また、法および国家の境界という観点から、日本人の「密航」をめぐる法解釈や実践、さらに公衆衛生とアジア人の身体についても分析を進め、佐藤健太郎・荻山正浩編『公正の遍歴』（吉田書店、2022年）所収の論文や紀要論文にまとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、北米におけるアジア系移民を対象とした人種主義を法文化の観点から掘り下げた点にある。従来の移民史においては移民法の制定過程などが議論されてきたが、本研究は移民が多く携わってきた「漁業」という生業の場に焦点を当てている。環境史や社会史の文脈で捉えられがちな漁業だが、法の解釈をめぐるどのような政治が展開されてきたのかという背景を探ることで、公正概念と集団の序列化との関係性を明らかにした。法の運用や解釈における人種主義への着目は、コロナ禍におけるアジア系への差別やヘイト事件の構造を理解する上で欠かすことのできない視点を提供し、社会的な意義も大きいと言えるだろう。

研究成果の概要（英文）：My research looked at the politics of Asian exclusion in the Western North America, as they particularly played out in the commercial fishing industries of California and British Columbia from the late nineteenth century to the early twentieth century. I published two book chapters based on my research and reading of archival and legal documents. The first was part of a volume I co-edited, in which I examined the meaning attached to the "public" in the Anglo common law tradition and its interpretation in North America. The second work came out in another edited volume on modern Japanese history, in which I highlighted the connection between the discourse surrounding the smuggling of Japanese immigrants and the border-crossing of Japanese fishermen in Southern California into Mexican waters. The new perspective from the research encouraged me to look into another area of legal "borderlands" in public health, which resulted in the publication of yet another journal article.

研究分野：アメリカ合衆国史

キーワード：移民史 法制史 アメリカ史 カナダ史 トランスナショナル・ヒストリー アジア系移民 北米漁業史 漁業権

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

一国史や一帝国史の限界を超えようとする歴史学研究の取り組みが、作られた「境界」の恣意性を暴き出し、人やモノ等の流れや結びつきを理解する上での新たな知見をもたらすようになって久しい。グローバル・ヒストリーやトランスナショナル・ヒストリーと並び、主に北米などで発展した環境史や海洋史(海から見た歴史)においても、国家の設ける枠組みの範囲内で検証するだけでは判然としない人と自然との関わりや、自然をめぐる対立および支配関係について明らかにするような研究がなされてきた。しかし、特に環境史的視点に立つ研究においては、資源保全という名目のもと擁護される人種主義的な法や政策については背景化しやすいという問題点がある。これは、学問分野としての「環境史」と「移民史」(または「エスニック・ヒストリー」)との棲み分けによるところが大きいものと思われる。一方で、資源保全のような国家や地方自治体(アメリカ合衆国[以下アメリカ]やカナダでは州)にとって正当化しやすい大義には、人種主義の隠れ蓑として利用されやすい側面もあるということに留意しなければならない。環境政策における人種の側面を見逃すことは、制度的人種主義の温存につながるためである。

本研究は上記のような問題意識に基づき、19世紀後半から20世紀前半の北米地域における「漁業権」概念の人種化の過程を、移民史、漁業制度史、法制史の見地から、日英両言語のアーカイブ史料分析を通じて解明することを目指した。天然資源である魚介類の所有に関し、アメリカ・カナダ両国はイングリッド慣習法の伝統を継承しつつ変容させ、19世紀後半以降漁場へのアクセスを管理してきた。一方、資本主義的発展に引き寄せられ太平洋を渡ったアジア系漁民(中国人および日本人とその子孫)は、北米漁場において貴重な経済的貢献をしたが、白人漁民や移民排斥論者の抗議運動の対象となり、その帰結として「公民」に開かれているはずの漁業権が、人種や市民権に基づいて制限され、剥奪される事態が生じた。その歴史的展開を、従来の移民史や漁業制度史のみの観点から断片的に論じるのではなく、北米法文化圏における法概念や制度変容との関連性において検証し、体系的に明らかにすることが本研究の狙いであった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、19世紀後半から20世紀前半のアメリカおよびカナダにおける「漁業権」概念の人種化について、その過程を解明することであった。同時期に北米太平洋岸地域へ多くの中国系・日系移民が流入したことにより、現地では激しい反アジア系移民運動が展開された。本研究は排除の対象となったこれらアジア系移民の中でも特に漁民に焦点を当てることで、北米法文化圏において公民に保障されていたはずの漁業を営む権利の実相が、政治的プロセスを経て変容してゆく過程を多角的に実証することを目指した。この目的を達成するため、漁業権に纏わる法概念の検証を行うほか、アメリカとカナダの漁業制度史を概括し、さらに漁業共同体や排斥活動家の言論や反応も分析することとした。また、従来個別に研究されてきた複数の学問分野を、漁業権と他者排斥の政治との関連性から架橋し、水産資源保全という「公益」が人種主義に絡めとられる過程とその帰結を詳らかにすることも目的とした。

3. 研究の方法

本研究は国内外でのアーカイブ調査による史料収集と分析をもとに進められた。当初は海外アーカイブでの調査が可能であったが、感染症の拡大により計画期間の後半はおもにオンラインのデータベースを活用して調査を行った。漁業権の根拠となったイングリッド慣習法の北米地域における発展と、第2次世界大戦前の同地域における漁業行政の全容を解明するとともに、アメリカおよびカナダの太平洋岸諸州におけるアジア系漁民排斥に関わる政治的動向並びに漁民共同体や本国政府、漁民の雇主である資本家の対応などを明らかにするため、以下のアーカイブおよびデータベースを利用した。

(1) アメリカ

サンディエゴ歴史センター(サンディエゴ)
アメリカ国立公文書館(メリーランド州カレッジパーク分室)
ワシントン大学図書館およびスペシャル・コレクション(シアトル)

(2) カナダ

カナダ国立公文書館(オタワ)
ブリティッシュ・コロンビア州公文書館(ビクトリア)

(3) 日本

外務省外交史料館(東京)

(4) その他(オンラインデータベース)

Westlaw Next

4. 研究成果

本研究の遂行により、20世紀初頭の北米地域における漁業権の人種化・白哲化の過程を明確化するとともに、日本人漁民の市民権取得が認められなかったアメリカと、日本人が「公民」としての地位を得ることのできたカナダとの相違についても明らかにすることができた。

また、漁業権に関する調査を進める過程で、国家の求める「公正」と人種主義的な政治との共謀関係、または国家の「公正」と地域や人種化された集団の求める「公正」との乖離が改めて浮き彫りになったため、計画期間の後半には日本人の「不正入国（密航）」や、入国管理における公衆衛生政策について、国内のアーカイブで集めた史料やオンラインの史資料等を駆使した調査も行った。これらの研究も「漁業権」の実態解明を目指した当初の研究目的から大きく逸脱するものではなく、北米法文化圏の視点からアジア系漁民やアジア人の身体をめぐる言説および実践を紐解いているため、歴史的な人種主義の様相を明確にするという広義の目的には合致していると言える。

主要な成果には、以下の3本の共著書・論文が含まれる。

(1) 石井紀子・今野裕子編『「法-文化圏」とアメリカ』(2022)

第2章「人種と資源保全——20世紀前半の北米地域における公共信託法理の悪用とアジア系漁民排斥」において、アメリカ及びカナダにおいて漁民を白人住民に限定する政治が展開されたこと、そして北米「法-文化圏」内における価値体系の変容や転用に人種を核とするローカルな秩序規範が影響し得るということを示した。

(2) 佐藤健太郎・荻山正浩編『公正の遍歴』(2022)

第6章「日本人の『密航』——1924年移民法と南カリフォルニア漁業」において、米墨国境地帯の日本人漁民に焦点を当て、国家が正義とする公正理念が特定地域や移民集団の利益とは相容れないことを示し、「公正」の多面性や恣意性を指摘した。

(3) 今野裕子『『危険な伝染病』の保菌者』(2023)

20世紀初頭のアメリカ西海岸における日本人移民の身体検査に関する史料をもとに、「東洋人」の病気として「危険な伝染病」に認定されたトラコーマおよび十二指腸虫症の検査に関する行政レベルの議論や実践を繙いた。

以上のような成果は、国境を超えた人流・物流・情報の流れなどを説明する枠組みとしてのグローバル・ヒストリーやトランスナショナル・ヒストリーと、一国内や一地域内の人種政治の実態を明確化する従来のエスニック・ヒストリーとを架橋する視点をもたらし得るものであると言える。さらに、法や法文化を分析対象とすることで、法原理と運用規則や実践との乖離を浮き彫りにし、制度的人種主義の史的展開の一端も明らかにすることができた。

今後も法と人種、グローバルと地域性を切り口に、「公正」や「正義」の持つ意味の曖昧さや多面性に注意を払うとともに、北米の漁業行政や日本人の「密航」をめぐる日米関係について、さらなる史料調査を行い、実証性を高める必要がある。得られた成果については国内外の学会で積極的に報告を行って研究の地平を広げるとともに、分野間に存在する障壁を乗り越えられるような分析枠組みの模索を続けることが肝要であると考えられる。

< 引用文献 >

石井紀子・今野裕子編. 2022. 『「法-文化圏」とアメリカ——20世紀トランスナショナル・ヒストリーの新視角』上智大学出版.

佐藤健太郎・荻山正浩編. 2022. 『公正の遍歴——近代日本の地域と国家』吉田書店.

今野裕子. 2023. 『『危険な伝染病』の保菌者——日本人移民と20世紀転換期のアメリカ公衆衛生』『亜細亜大学国際関係紀要』第32巻第2号、81–109頁.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 今野裕子	4. 巻 32 (2)
2. 論文標題 「危険な伝染病」の保菌者 日本人移民と20世紀転換期のアメリカ公衆衛生	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 亜細亜大学国際関係紀要	6. 最初と最後の頁 81-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 今野裕子	4. 巻 30 (1・2)
2. 論文標題 戦時動員と排除 第二次世界大戦下の南カリフォルニア漁業と国防	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 亜細亜大学国際関係紀要	6. 最初と最後の頁 201-231
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 今野裕子	4. 巻 989
2. 論文標題 ターミナル島日本人海民のトランスローカリズム、人種・エスニック化、差異化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 125-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 今野裕子
2. 発表標題 伝染病とアジア人の身体 20世紀転換期のアメリカ公衆衛生と日本人移民
3. 学会等名 第56回アメリカ学会年次大会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 今野裕子
2. 発表標題 ターミナル島日本人海民のトランスローカリズム、人種・エスニック化、差異化
3. 学会等名 2019年度歴史学研究会総会・近代史部会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuko Konno
2. 発表標題 Fishing the Pacific: Translocalism, Resistance, and Solidarity among Terminal Islanders before and during WWII
3. 学会等名 Annual Meeting of the American Studies Association（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 今野裕子
2. 発表標題 北米地域における「公共」概念の変容とアジア系漁民排斥の政治
3. 学会等名 第68回日本西洋史学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 石井紀子・今野裕子（編著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 上智大学出版	5. 総ページ数 250
3. 書名 「法-文化圏」とアメリカ 20世紀トランスナショナル・ヒストリーの新視角	

1. 著者名 佐藤健太郎・荻山正浩（編著）、中西啓太、加藤祐介、富江直子、青木健、尾原宏之、今野裕子、井上直子、池田真歩、出口雄大（著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 吉田書店	5. 総ページ数 568
3. 書名 公正の遍歴 近代日本の地域と国家 * 今野裕子「『日本人の『密航』 1924年移民法と南カリフォルニア漁業』265-313	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------